
ルミ子ちゃん

双海夏生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ルミ子ちゃん

【Nコード】

N6713N

【作者名】

双海夏生

【あらすじ】

小学校のときに転校してきたかわいい子。
なんとか仲良くなりたい。

そして、思わぬ幸運が。

最後は、ちよつと酸っぱい思い出に。

斉藤直人は小学校の三年生になっていた。

担任の先生は、中堅でエネルギッシュな高田先生から、若くて可愛い中西先生に変わった。

中西先生は、礼子という名前だった。
ホントにかわいい先生だった。

先生は、子供たちとの交換日記を始めた。
あろうことか、直人はこの交換日記で礼子先生を口説くのだった。

「先生は、とってもかわいいとおもいます。とくにほったがでっぱっていて、そこがとってもかわいいです」

「ありがとう。斉藤君にほめられて、先生とってもうれしいです」

直人のプレイボーイ遍歴はここから始まる。

しかし、酷い口説き文句もあったもんだ。

これでは、堕ちるはずもない。

三年生の新学期から始まった礼子先生との日々も、あと四カ月で終わることを直人はまだ知らない。

夏には茨城に転校してしまうのだ。

そうとは知らず、直人はなったばかりの三年生を満喫していた。

三年生になった最初の日、クラスに一人見慣れない娘がいるのに気付いた。

転校生というものは、良くも悪くも目立つものだ。

新しいお友達、と転校生に対して使われる常套句で紹介されたその娘はルミ子ちゃんといった。

お察しの通り、このルミ子ちゃんもかわいかったが名字は覚えていない。小柳でないことだけは確かだ。

五月に入り、礼子先生がある試みを子供たちに投げかけてきた。

礼子先生は、かわいいだけでなく革新的だった。

なんと、子供たちに先生の代わりに授業をしてみないかと言い出したのだ。

もちろん、先生もその場にいてちゃんとフォローはしてくれる。

この試みは、直人に強い印象を残し、三十年経って活かされることになる。

サラリーマン時代に研修会の企画から実行までの一際を任されたことがある。直人は礼子先生が試みた子供たちの授業を思い出した。外部から講師を招かず、新入社員に講師をやってもらうことにした。ベテラン社員をフォロー役にして。

講師に選ばれた人間は、どんな質問にも答えられるよう準備をしておかなければならず、新入社員のスキルアップに絶大な効果があっ

たのだ。

研修会は成功した。

礼子先生のおかげで。

子供たちの授業はもちろんやることに決まった。

みんな礼子先生が大好きだった。

子供たちの担当が決められていく。

二人ひと組だ。

お察しの通り、直人の相方には幸運にもルミ子ちゃんが選ばれた。
担当するのは理科だった。

二人で、準備をするのが嬉しかったし、楽しかった。

「さいとうくん、じゅぎょうのじゅんび、きょう　うちでやらない
？」

もちろん直人はふたつ返事だ。

学校が終わって、ルミ子ちゃんの家にお邪魔する。

ルミ子ちゃんの家は、直人と同じ町営住宅の一角にあり、裕福な暮らしでないのは子どもの直人にもわかった。

「きょうは、おうちのひといないんだ」

「！」

お察しの通り、直人はルミ子ちゃんを抱きしめ想いを遂げる。

わけがない。

直人はまだ八歳で、男の本能など、小指の先ほども芽生えてはいないのだった。残念ながら。

直人は、大人がいらないという子供たち特有の安堵感を感じて喜んだ。

二人でノートと教科書を広げ、
広げ、

広げて、えーっと、

広げたところで、おなかが鳴った。

「ちょっとまって、オヤツさがしてくる」

台所で、冷蔵庫を開ける音。

「はい、これ。たべて」

目の前に出されたそれを見て、直人は少なからず動揺した。

「なに？　これ？」

「しめさばよ。おいしいのこれ」

メサバを見るのは、初めてだ。

恐るおそる食べてみた。

しめさばは旨かった。

いま思えば、子供たちがオヤツがわりに食べてしまった、あの「しめさば」はルミ子ちゃんのお父さんが晩酌の肴にと、楽しみにとっておいた「メサバ」ではなかったか。

お父さんが仕事から帰って来て、ビールを注ぎ、嬉々として冷蔵庫を開け、消えたメサバに愕然としたのではないか。

直人はあの夜、ルミ子ちゃんがお父さんに叱られたのではないかと、三十年以上も前のことを心配している。

そしていまでも、直人は居酒屋でメサバを注文するとき躊躇する。直人にとって、しめさばは酒の肴ではなく、オヤツだからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6713n/>

ルミ子ちゃん

2010年10月9日10時30分発行